



繊維原料からプラスチック原材料の加工へ

当初は繊維原料の販売・加工を手掛けていたが、昭和 48 年にプラスチック原材料の着色・加工業に業務転換し、現在に至っている。したがって、現在は異業種参入事業が本業となっている。

業況等の動向について

異業種に参入した動機や経緯、きっかけ

当社は昭和 33 年「浅野整毛」として、繊維原料の販売及び加工業を父親が興した。その事業を引き継いで経営を続けることに物足りなさを感じ、将来性の有る業種・事業を父親と熟考し異業種への参入を決意した。その後、昭和 48 年にプラスチックの原材料の着色・加工及び販売を始め、徐々に繊維原料の取扱量を減らし昭和 50 年にその扱いを終了し現在に至っている。

業況等について

昭和 48 年に現在のプラスチックの原材料の着色・加工及び販売に業務転換し、売上高構成比は 100%である。売上高は 1,800,000 千円に達していたが、リーマンショックの影響は避けられず一気に減少した。厳しい環境にありながら、現在の売り上げは昨季を上回り 1,400,000 千円を確保している。プラスチック原材料の着色・加工販売は、バブル崩壊・経済のグローバル化が進み価格競争が激化してきた。業況としてはやや好調に推移している。ただ、2011 年は 7 月から中国国内経済が少々停滞気味であるため、2011 年末までは不安定な状況が続くと思われる。しかしながら幸いにも売り上げが維持出来ているのは、顧客数とその質に恵まれたお陰だと感謝している。

今後の展望・見通し

中国国内の消費経済状況が安定しない間は、生産量も特に伸びることは期待出来ないため現状維持で推移すると思われる。来年以降も極端な拡大路線を取ることは困難であると予想している。経営者であっても現場を離れることなく、常に先頭に立って業務に取り組みアンテナを張り巡らして粘り強い事業を行っていく。また、以前から手掛けているプラスチックのリサイクルを継続し環境問題から目を逸らすことなく取り組んでいく。

参入に際しての投資について

プラスチック原材料の着色・加工を始めるにあたり、機械設備一式に 2,000 万円ほどの投資を行った。

参入して最も困難だったこと

人(取引先)の見極めが難しいと感じた。ただ売ることだけを考えていたため、納品を完了させたが代金の回収が出来ないということも度々経験した。

また、貿易書類の作成方法を学ばなければならなかったことや調色技術の習得にも大変な努力要した。

参入に際して活用した自社の技術/ノウハウについて

材料判別技術は、繊維原料の販売・加工を行っていた頃に身に付けた技術を活用した。具体的には、着色する物の材質を匂いで判断する技術で独特なもの。繊維とプラスチックが似た材質のため取り組み易かった。

メリット・デメリット

当社は昭和 48 年に業態転換しているが、異業種参入も時期を見極めなければメリットを享受することはないと考えており、現在はメリットを見出せる時期ではないと見ている。

デメリットとしては本業への注力が割かれ、経営悪化を招きかねないこと。また、既存事業を完全に任せられる人材を育成することも非常に難しいと感じている。

異業種参入時のアドバイス

新たな事業を始めるときには経営体力的にも、人的にも無理をしないことが大切である。

行政の支援について

異業種参入に際し、役に立った行政、支援機関の制度

プラスチック原料の着色・加工及び販売は、名古屋銀行の信頼が有ったことで、第一歩を踏み出すことが出来た。

会社概要

設立:1973年2月10日

資本金:1,000万円

従業員数:27名

URL:<http://www.asano-bussan.co.jp/>